3定札幌市議会代表質問（1日）

活性化プランを来年度中に策定

建設業の担い手確保

札幌市議会第3回定例市議会代表質問が1日行われた。建設業における担い手確保について、秋元克広市長は、2019年度中に建設業の魅力向上、将来にわたる健全な体制維持を目的とした活性化プランを策定する意向を示した。

活性化プランでは、ICTの活用などによる生産性向上、就業環境の改善など働き方改革の推進について定める。建設業界と市が意見交換を行い、課題や目標を共有しながら検討を進める。村松叶啓議員（自民党）の質問に対する答弁。

1人乗り機械の導入など推進

除雪の人手不足対策

除雪従業者の人手不足対策について、秋元市長は「運搬時間を短縮する既存融雪槽の増強など、作業軽減に資する投資を進めるとともに、1人乗り除雪機械の導入拡大やICTの活用を図りたい」と述べた。村松議員の質問に対する答弁。

2種類を統合し年度内に改訂

洪水ハザードマップ

洪水ハザードマップの改定に関し、秋元市長は「2種類に分けて作成していたものを統合し、より分かりやすいものに改訂する」と述べた。市は現在、豊平川、新川、石狩川のマップと中小河川のマップの2種類を公表している。本年度中に、改訂版を公表する計画。村松議員の質問に対する答弁。

専門家委で適切な整備手法など検討

新琴似市民運動広場

新琴似市民運動広場の整備について、秋元市長は「想定を上回る軟弱な地盤であることから、現在専門家委員会において適切な整備手法等について検討している」と報告。「今後は事業化に向け、汚染物質の拡散防止対策を検討する」と述べた。村松議員の質問に対する答弁。

設置場所や規模等本年度に検討

動物愛護センター整備

仮称・動物愛護センターの整備について、岸光右副市長は「本年度は、候補地の周辺環境等の諸条件を整理するため整備基礎調査を行い、設置場所や施設規模等について検討する」と述べた。かんの太一議員（民主市民連合）の質問に対する答弁。

仮称・動物愛護センターには、八軒本所における事務管理部門と、福移支所における動物保護管理部門を集約するほか、市民の学習・交流の場となる多目的室や犬猫の収容室などの設置を想定している。

軟式球場を転用

硬式球場の整備方針

アマチュア野球振興のための硬式球場整備について、秋元市長は「既存の軟式球場から硬式球場への転用を図る」との方向性を示した。「現在、整備手法や候補地について、北海道野球協議会をはじめとする関係団体と検討を進めている」と報告した。

また、老朽化のため改修する硬式野球場の麻生球場、円山球場にも言及。「現状の硬式野球環境を改善した上で、順次実施する」との意向を示した。村松議員の質問に対する答弁。

アーチ橋のつくり方伝える

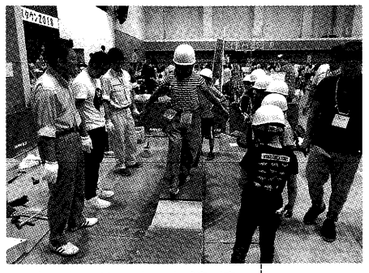
はこだてキッズタウン２０１８

初参加 函館建青会が建設業ＰＲ

【函館発】函館市など主催する「はこだてキッズタウン2018」が9月30日、サン・リフレ函館で開かれ、函館建青会（渡辺一史会長）が初参加した。子どもたちにレンガアーチ橋のつくり方をレクチャー。ものづくりの面白さと建設業の魅力を伝えた。

はこだてキッズタウンは、子どもたちが仮想のまちで職業体験や消費体験を通じて社会の仕組みを学ぶイベントで、市内の小学3、4年生約500人が参加。仮想のまちにある会社に就職し、そこで得た給料をもとに買い物や食事を楽しんだ。

様々な企業や団体が参加しており、今回、函館建青会も初めて参加。ことし8月に「第7回はたらくのりもの大集合in函館」に参加した際、ブースの出展をはじめ会員8人が参加。函館市土木部の職員とともに、子どもたちにレンガアーチ橋のつくり方を教えた。子どもたちと協力しながら、木製の土台の上にレンガを積み上げ、レンガの隙間に砂を敷き詰めるなどしたあと、土台を取り外して完成。子どもたちは、恐る恐るレンガアーチ橋の上を歩き、壊れないことを確かめると「すごい」「頑丈」などと驚きの声を上げていた。



完成後のレンガアーチ橋を渡る子どもたち

協力してもらった函館市の職員から同企画を教えてもらい、子どもたちに建設業の魅力を知ってもらおうと参加を決めた。

当日は、渡辺会長が自分たちの手でつくり上げたときの笑顔を見ることができ、やりがいを感じた」と来年以降も参加していく考えを示していた。

渡辺会長は「子どもたち

最優秀は苫工高チーム

高校生建築デザインコンクール

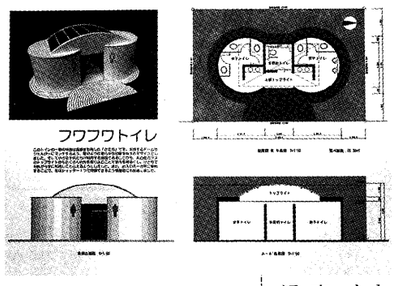
道建築局

道建築局は、2018年度高校生建築デザインコンクールの入選作品を発表した。最優秀作品賞には、苫小牧工業高校の鈴木達也君、板垣謙典君、松芳大輔君がデザインした「フワフワトイレ」を選出。11月上旬にも賞状と受賞記念品を贈呈する。また、来年1月15、16日に道庁本庁舎1階道民ホールで作品展を開催する。

道、日本建築家協会道支部、道建築士事務所協会、道建築士会主催の同コンクールは、道内の建築系学科が設置されている高校に在籍する生徒から、道が整備する公共建築物のデザインを募集するもの。

本年度の設計課題は、十勝川温泉に隣接して整備された道立十勝エコロジーパーク内の施設利用者が主に利用する「屋外トイレ」。設計条件として、平屋1棟、床面積25平方メートル以上30平方メートル以下としたほか、構造は問わず、男女別トイレを設け、乳児、幼児、車椅子の利用者にも配慮するよう求めた。来年度以降に着工する予定。

今回、高校8校から寄せられた111点から最優秀作品1点、優秀作品3点、佳作4点、特別賞2点を選定。最優秀作品賞を受賞した「フワフワトイレ」は、公園内にあるフワフワドームと関連したデザインを昇華させ、シンプルなデザインが評価された。



公園内にあるフワフワドームと関連したデザインを昇華させ、シンプルなデザインが評価された

したデザインを昇華させて建築的に完成度が高かったこと、シンプルなデザインが高く評価された。

暫定供用披露会

台風の影響で中止

函館港若松地区クルーズ船岸壁

【函館発】函館開建と函館市は、きょう2日に開催を予定していた函館港若松地区クルーズ船岸壁暫定供用披露会を中止とした。台風24号により、同日寄港予定だったクルーズ船「にっぽん丸」のツアーが中止になったため。ことしは若松ふ頭へのクルーズ船の寄港を予定しておらず、若松ふ頭への第一船の寄港は来年以降になる見通し。なお、岸壁整備を進めている函館開建は、すでに完成している岸壁225㍍について、1日に港湾管理者の函館市に管理委託している。

横顔

ICT活用しさらに高みへ

齊藤建設㈱（函館）土木部土木課工事長

村上　直人　氏

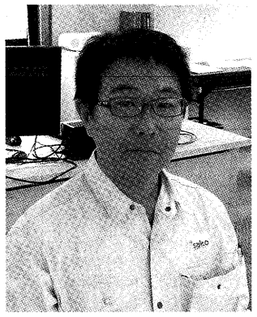
「函館江差道木古内町大平西改良」で自身初めての開発局長表彰を受賞。11万立方㍍もの土砂を他工区から受け入れての盛土工事だったが、「何事も最も重要なことから始めるようにしている」と、効率的な土砂受入と安定的な品質確保の方法を考えることから始めた。

土砂受入については、共通の土砂流用管理図を利用することで効率性を確保。盛土についてはICT技術を搭載したGPSローラーによる転圧と、簡易水分計で施工含水比をコントロールし、優れた品質の確保を実現。一つ一つ集中して最適な方法を見つけ出し、見事に難工事を乗り切った。

土木工事は「完成までの道のりがいくつもある」と、ゴールまでの過程にやりがいを感じるという。初めて現場代理人を務めた現場は地元から離れた岩見沢市で、道南地方では経験したことのない吹雪に見舞われ自然の猛威を体感した。

それでも仲間とともに自然に立ち向い、無事に完成。厳しい環境を乗り越えゴールにたどり着いたときに「辛さより喜びが勝る」と強調する。こうした喜びを毎年味わえることが「仕事の魅力」とし、「今後もICT技術を活用し、技術力を高めていきたい」とさらに高みを目指す。

夫人と2男の4人家族。シュノーケリングが趣味で、子どもたちと一緒に潜ることも。会社が働き方改革の一環として週休2日を推進していることもあり、ことしの夏もシュノーケリングで休日を満喫した。



むらかみ・なおと

1993年知内高卒業。99年齊藤建設㈱入社。2017年土木部土木課工事長に就任、現在に至る。74年9月16日生まれ、44歳。知内町出身。

復興支援

胆振東部地震

道へ見舞金100万円

東海建設

【室蘭発】東海建設㈱（室蘭、中田孔幸社長）は、北海道胆振東部地震に伴う災害復旧への支援として、道庁へ見舞金を贈呈した。9月28日、胆振総合振興局局長室で行われた贈呈式で、中田社長が山口修司胆振総合振興局長に見舞金の目録を手渡した。

贈呈式には、東海建設からは中田社長、松井雄司土木部主任、道からは山口局長、坂野雅人副局長、田中篤実室蘭建管用地管理室長、泉智夫室蘭建管事業室長が出席。見舞金100万円は、社員が自主的に集めた。

中田社長が山口局長に見舞金の目録を手渡し、山口局長は「社員の方々が自主的に集めていただいたということで、とてもありがたく思う」と感謝するとともに、「建設業界の方々には直ちに対応いただいた。災害があったときの建設業のありがたみをあらためて感じた」「地元の人が安心して暮らせるインフラ整備が何よりも大切」などと話した。

中田社長は、室蘭建設業協会会長として「こうした事態を踏まえて、我々も体制を再構築したい」、社長として「有効に使っていただきたい。社内についても体制を整えたい」と述べた。震源地近くで農業土木工事を担当している松井主任は、地震発生直後からの支援の取組や見舞金贈呈に至る経緯などを話した。

見舞金は同社社員が自主的に集めた